

道徳ものがたり

表題は1990年発行の名古屋市立道徳小学校「創立50周年記念誌」。道徳に関心を持ったのは、通院している「はやし鍼灸院」近くの酒屋さんがきっかけだ。

酒屋さんに行くと、店番をしている90歳になるおばあさんと話をするのが楽しみだ。伊勢湾台風や戦争の話など。おばあさんは道徳の地で戦争の時代を過ごした。焼夷弾が家の天井を突き抜けた話など、戦時下の生々しい話、「戦争体験」に耳を傾けた。

この記念誌をすこしコピーして、おばあさんに渡すと、道徳時代が懐かしいと喜んでもらった。なんだか道徳に興味が広がり、猛暑のなか駆け足で歩いてみた。

金山から名鉄の各駅停車で3つ目が道徳駅だ。昔は南区でも有数の繁華街だったが、あまり人通りは多くなかった。駅からすこし行くと大きな公園があった。道徳公園は3.57haの敷地に池や桜並木がある。この公園と大江中学校・道徳小学校を合わせた敷地に「マキノ道徳撮影所」があった。1927(昭和2)年のことだ。



映画の父、マキノ省三が生涯をかけて制作した『実録・忠臣蔵』もここで撮られた。坂東妻三郎や片岡千恵像ら当時の人気俳優も。映画のセットも大がかりで、「松の廊下」のセットは道徳小学校の場所にコの字型に作ってあった。撮影をひと目見ようと見物人が訪れ、撮影所は内も外も人であふれていた。露店が出て、花火も打ち上げたりして、まるでお祭り騒ぎのようだったという。なぜこの地に撮影所ができたのか、その後「撤退」した経緯を含め、また調べてみたい。



道徳小学校から道徳公園に向け「文政のみち」というコミュニティ道路が続いている。「文政のみち」は今に至る道徳の歴史に関わる。道徳公園に大きな「鷲尾善吉翁頌徳碑」が立っている。その刻文要約が記念誌に「豆知識」として掲載されている。

「道徳前新田を開発した鷲尾善吉は尾張の国の塩田村（今の海部郡八開村）の裕福な百姓の家に生まれる。文化14年、自分で資金を出して道徳前新田を開こうと干拓工事を始める。その広さは、北は道徳北町より南は山崎川、東は道徳本町より西は南陽通りまでの海面を新田にするという大がかりなもので、完成は文政4年である。この新田は熱田区の七里の渡しより東では最大の新田である。その後、何度か風水害にあい、堤防の修理をくり返したため財産を使い果たす。ついには尾張藩徳川家の御小納戸に新田を差し出す。また、多くの借金をかかえ、8年間の苦労も水のあわとなり、文政7年、33才の時ふるさとの塩田村に帰る。善吉翁はその後長生きをし、90才で亡くなる。」

道徳は江戸時代に開かれた干拓地であり、伊勢湾台風でも大きな被害を受ける。

(2016年8月23日)